

巻頭言

新年おめでとうございます。

昨年は、農地中間管理事業の推進に御理解と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。3月末には前年度を上回る取組面積となる見込みです。今年もよろしくお願いたします。

さて、来年度は農地中間管理事業5年後見直しにより、人・農地プランの実質化、仕組みの簡素化、体制の一体化等が実行される年。将来に向けて大事な年になります。

10年後、20年後の地域の農地をどうするか。農地は、担い手に集積・集約化し、農業生産に活用、農地として維持していくことが重要です。また、農地対策と担い手対策は両輪、不可欠。公社では、新規就農者の育成・確保、農業経営相談所による経営改善、法人化などの農業者支援にも積極的に取り組みます。

農地の集積・集約化に向け、県、市町、農業委員会、JA等関係機関の皆様と一体となって、農地中間管理事業を推進してまいります。(静岡県農業振興公社 理事長 大谷徳生)



いまこそ、みんなの力で農地集積を

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

改正農業委員会法の施行により、本県では980名の農業委員・農地利用最適化推進委員が農地集積・集約化に向けた活動を行っています。国では、農地中間管理事業の5年後見直しで農業委員・推進委員の役割を法令で明確化する方向にあり、農地の出し手と受け手とのマッチングなど、農業委員会の果たす役割がますます重要になっています。農業会議としても、引き続き農業委員会への各種研修会等を開催し、農地集積を支援していきます。

また、関係機関が一体となって、受け手となる担い手の育成・確保を図るとともに、土地改良区等と連携して、担い手が必要とする優良農地の整備を進めていく必要があります。

いまこそ、関係機関、農業委員・推進委員のみんなの力で農地集積・集約化を進め、本県農業を強くしていきましょう。

(静岡県農業会議 会長 黒田淳之助)



意欲的な担い手を育成し、農地集積の一層の推進を

新年明けましておめでとうございます。

昨年11月、農地中間管理事業が5年を経過したのを機に、国から制度の見直し方針が示されました。この中では、地域の話し合いをより重視し、実質的に機能する「人・農地プラン」の作成や、手続きの簡素化、農地利用集積円滑化事業との一元化等を進めるとされています。

県では、今回の見直しを契機に、意欲的な担い手への農地集積の一層の推進を図りたいと考えております。

こうした中、本年秋には、全国の担い手が一堂に会してお互いを高め合う、「全国農業担い手サミット」が本県で開催されます。担い手自らの経営改善と地域農業の発展を目指すとともに、本県農業の魅力为全国に発信する絶好の機会であり、成功に向けて、全県を挙げて取り組んでまいりますので、皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(静岡県経済産業部 農業ビジネス課長 田中宣孝)



事業の実施状況

平成30年12月末現在の農地中間管理事業による借入面積は648ha、貸付面積は671.6haで、昨年度とほぼ同程度の実績となっています。

本年度も残り3か月となりました。引き続き、関係機関が密接に連携した取組をお願いします。また、昨年度と同様、すべての市町で事業が実施できるよう御協力をお願いします。

市町別借入・貸付面積（平成30年12月末現在）

（単位：ha）

市町名	借入面積	貸付面積	市町名	借入面積	貸付面積	市町名	借入面積	貸付面積
下田市			裾野市	6.1	6.3	牧之原市	19.8	20.2
東伊豆町	0.8	0.8	長泉町	0.4	0.4	吉田町	7.3	8.1
河津町	0.2		御殿場市	2.0	1.1	志太榛原計	97.5	101.2
南伊豆町	0.4	0.4	小山町	6.4	4.5	御前崎市	4.6	4.4
松崎町	0.2	0.2	東部計	57.2	59.7	菊川市	4.4	8.8
西伊豆町			富士宮市	69.6	70.0	掛川市	181.5	178.2
賀茂計	1.6	1.4	富士市	72.8	87.1	磐田市	25.7	32.1
熱海市	0.1	0.1	富士計	142.4	157.1	袋井市	20.9	6.6
伊東市		0.5	静岡市	9.2	9.3	森町	67.1	68.5
三島市	9.5	13.4	中部計	9.2	9.3	中遠計	304.2	298.6
函南町	6.1	10.2	島田市	17.8	16.9	浜松市	34.2	42.5
伊豆市	0.3	0.3	焼津市	30.6	32.8	湖西市	1.8	1.7
伊豆の国市	1.0		藤枝市	14.1	16.1	西部計	36.0	44.2
沼津市	25.3	22.9	川根本町	7.9	7.1	合計	648.0	671.6

事業の活用事例

① 環境保全と効率的な水田農業に取り組む～浜松市西区雄踏町 加茂博子さん

浜松市西区雄踏町の稲作農家で県農業経営士に認定されている加茂博子さん。突然の病を患った父親に代わって米作りをはじめ、現在の経営面積は18haで就農当時の約20倍、うち15haが農地中間管理事業で借り入れた水田です。

雄踏地区は、市内でも有数の水田地帯で、地区水田利用調整協議会を中心とした集積・集約化に早くから取り組んできました。加茂さんも協議会を通じて水田を借り入れるとともに担い手同志で交換・大区画化するなどして集積・集約化を進めてきました。

環境保全への意識も高く、県知事が認定する「しずおか農林水産物認証制度」の水稲第1号の取得や環境にやさしく高品質な地域ブランド米「やら米か」の共同販売、地域の子供たちによる田植えや稲刈り体験会の開催など、幅広く活動しています。



大区画水田と加茂博子さん（左）

農地貸します

農地借ります

**農地の貸し借りは
農地中間管理事業で!!**

② JA プチヴェール部会を牽引／農地中間管理事業も活用中～沼津市井出 深澤貞博さん

青汁の原料「ケール」と「芽キャベツ」を掛け合わせて作られた結球しない芽キャベツ「プチヴェール」、県内では主に沼津市、清水町、浜松市等で栽培されています。非常に栄養価が高く、カルシウム、カロテン、鉄分等が豊富に含まれています。

沼津市井出の深澤貞博さん（県農業経営士）は、JA なんすんプチヴェール部会の部会長として 20 名の部会員をリードし、生産拡大と品質向上を進めています。

プチヴェールのほかにも茶、水稻、果樹など、年間を通じた労働配分も考えながら多様な作物を栽培しており、12ha の経営耕地の約 3 分の 1 を農地中間管理事業を通じて借入れ、規模拡大を進めてきました。

地域農業を継続させていくためには、農地をできるだけまとめて作業を効率化させることが重要と考えており、経営改善にも意欲的に取り組んでいます。



プチヴェールと深澤さん（右）

農地利用最適化活動の先進事例 ～ 島根県松江市農業委員会

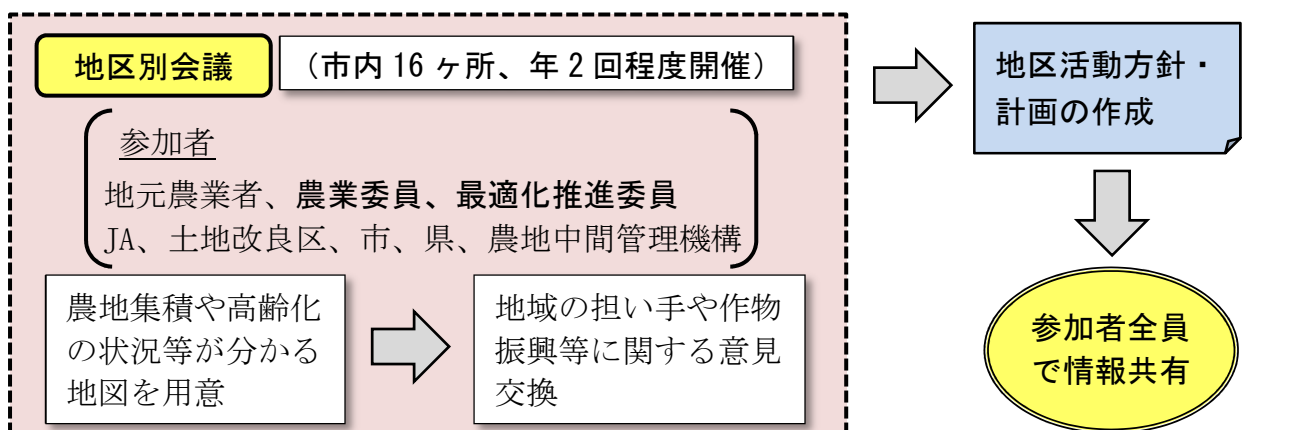
昨年 11 月に農林水産省から示された農地中間管理事業の 5 年後見直しの中で、第一に掲げられているのが「人・農地プランを実質化させるための取組」です。

先日、公社が島根県における農地中間管理事業の取組を調査した折に、松江市農業委員会の話しを聞いてきました。

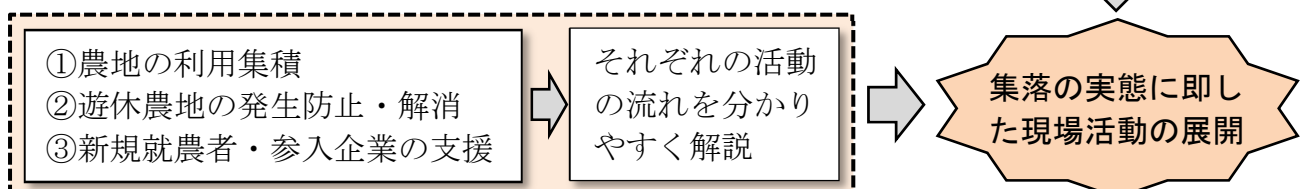
松江市農業委員会は、平成 29 年 7 月に新体制へ移行し、新たな農業委員と農地利用最適化推進委員が就任した直後から積極的に農地利用の最適化に向けた取組を開始しました。「市内全地区における話し合いの場（地区別会議）の設定」や全国に先駆けた「最適化活動マニュアル」の作成等を通じて農地の利用集積や担い手の確保に取り組んでおり、地域の合意に基づく基盤整備事業の実施など、着実に成果を挙げています。

松江市農業委員会の農地利用最適化推進活動

1 農地利用の最適化に向けた地区別会議の開催



2 最適化活動マニュアルの作成



「農地中間管理事業の5年後見直しについて」が示されました

昨年11月に「農地中間管理事業の5年後見直し等について(取りまとめ)」が農林水産省から示されました。見直しの概要は下記のとおりで、次期通常国会に必要な法案が提出されます。

総論	市町、農業委員会、JA、土地改良区等のコーディネーター役を担う組織と農地バンクが一体となって推進する体制を構築
地域における農業者等による協議の場の実質化	<p>人・農地プランを実質化させるための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の農地について、耕作者等の年代情報や後継者の状況等を地図で把握し、集約化の将来方針をプランに記載することを必須化 ・農業委員、農地利用最適化推進委員の話し合いへの積極的参加を法律で明確化
農地バンクの仕組みの改善	<ul style="list-style-type: none"> ・出し手から農地バンク（農地中間管理機構）、農地バンクから受け手への権利設定を一括して行うことができる仕組みの創設 ・農用地利用配分計画の縦覧及び利用状況報告の廃止 ・機構集積協力金については、地域タイプに重点化・一元化を図り、出し手についてもその中で支援
農地の集積・集約化を支援する体制の一体化	<p>農地利用集積円滑化団体を農地バンクに統合一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農促進等に一定の実績があるJAが配分計画の案を作成可能に ・経過措置として、賃借権等を一括して円滑化団体から農地バンクに継承することができる仕組みの創設

「静岡県農地利用最適化推進活動表彰」の受賞者が決定しました

県が平成24年度から実施してきた「耕作放棄地再生活動表彰」に、今年度から新たに「農地集積・集約化部門」が創設され、「農地利用最適化推進活動表彰事業」として、優良事例を表彰することになりました。

「耕作放棄地対策部門」、「農地集積・集約化部門」にそれぞれ9点の応募があり、昨年12月に審査を行い、耕作放棄地対策部門では企業組合松崎桑葉ファーム（松崎町）、農地集積・集約化部門では河東パイプライン化推進協議会（菊川市）が最優秀賞に決定しました。表彰式は、1月30日（水）にグランシップ（静岡市）で開催される「耕作放棄地再生・活用等シンポジウム」において行われます。



企業組合松崎桑葉ファームによって再生利用された桑畑



集積・集約化後の河東地区の水田（担い手ごとに色分けしたもの）

農業振興公社（農地中間管理機構）がサポートします

静岡県 農業振興公社

検索

本社	農地集積課	☎054-250-8989	〒420-0853	静岡市葵区追手町9番18号	静岡中央ビル7階
	東部駐在	☎055-924-3993	〒410-0055	沼津市高島本町1の3	東部農林事務所内
	富士駐在	☎0545-65-2261	〒416-0906	富士市本市場441の1	富士農林事務所内
駐在	中部駐在	☎054-646-2122	〒426-0075	藤枝市瀬戸新屋362の1	志太榛原農林事務所内
	中遠駐在	☎0538-35-1335	〒438-8558	磐田市見付3599の4	中遠農林事務所内
	西部駐在	☎053-458-7105	〒430-0929	浜松市中区中央1丁目12の1	西部農林事務所内